

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム しおさい		
所在地	山口県下関市武久町2丁目53番8号		
電話番号	083-254-4031	事業所番号	3570101158
法人名	医療法人 社団 青寿会		

訪問調査日	平成 22 年 3 月 29 日	評価確定日	平成 22 年 6 月 17 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	10 人	常勤 6 人 非常勤 4 人 (常勤換算 7.9 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨		造り	
	1 階建ての	~	1 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	25,000 円	敷金	無	0 円
保証金	無	0 円	償却の有無	無	
食費	朝食	400 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	0 円	
その他の費用	月額	8,000 円			
	内訳	光熱水費			

(4) 利用者の概要 (2月1日現在)

利用者数	9 名		男性	0 名	女性	9 名
	要介護1			要介護4		4
	要介護2		1	要介護5		
	要介護3		4	要支援2		
年齢	平均	83.4 歳	最低	67 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科	医療法人 社団青寿会 武久病院
	歯科	医療法人 社団青寿会 武久病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

毎日の献立を利用者と職員が一緒に立てる事ができ、手作りおやつも時々作られています。食事の手伝いやお盆拭き、ナプキン作り、野菜の収穫、サンドイッチやたこ焼き作り等は利用者の楽しみ事になっています。収穫した野菜や果物、梅等の加工食品作りは、昔の生活の知恵を発揮でき、利用者が主役になって活躍されています。利用者や職員がそれぞれ意見を出し合える雰囲気があり、利用者は明るく元気に過ごされています。

(特徴的な取組等)

運営推進会議が充実しており、頻繁に交流されている畑のボランティア全員と料理作りボランティア等もメンバーとして参加され、家族や利用者との交流行事には共催として参加されています。職員は利用者が楽しめるように支援をされ、クリスマス会は、家族(遠くに住んでいる兄弟や孫達の参加も)、ボランティア等参加者全員(40~50人)と一緒にイベントや食事をされています。法人の管理栄養士や薬剤師を利用したミニ講座を開催され、職員のスキルアップに取り組んでおられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果で取り組みを期待したい項目の災害対策については、運営推進会議で取り上げて、地域の方の参加を働きかけておられます。

(今回の自己評価の取組状況)

職員や管理者は自己評価や外部評価の意義を理解され、全職員が自己評価に取り組んでおられます。職員は3グループに分け、グループ毎で検討し評価しておられます。結果を管理者がまとめ、全職員で確認しておられます。

(運営推進会議の取組状況)

2か月に1回開催し、利用者・家族や近隣住民代表、民生委員(2名)、ボランティア(4名)、第三者委員、地域包括支援センター職員、利用者がメンバーで、施設や利用者の状況、行事、外部評価報告、災害時の協力依頼等を議題に意見交換し、サービスに活かされています。

(家族との連携状況)

年4回発行する「事業所たより」、利用者の日々の様子や健康状態等を記入した「連絡ノート」を見てもらい、面会時や電話等でも報告され、各行事への参加を呼びかけ交流されたり、利用者や家族の思いや要望を聞かれています。

(地域との連携状況)

法人全体で自治会に加入され、年間を通して活躍されているボランティアの人たちとの交流もあり、地域で行われる文化祭へ出品したり、近所のみかん狩りに出かけたりと、地域の人々と一緒に参加できる楽しみ事が多く、利用者とともに交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域社会の一員であると共に、地域から求められる事業所を目指し、笑顔で明るく元気に過ごされるように支援します。」という事業所独自の理念を全職員で作りに上げている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	いつも見える所に掲示し、管理者と職員は業務前に唱和し、理念を共有し実践に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	法人全体で自治会に加入し、年間を通して活動されている畑のボランティアや料理ボランティア、マジックショーボランティアの人と交流したり、近所のみかん狩りに出かけたり、夏祭り、散歩等で顔馴染みとなった地域の人と声をかけ合っている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員や管理者等は、自己評価や外部評価の意義を理解し、評価の中から課題の改善に取り組むなど気づきや振り返りの機会になっている。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2か月に1回開催し、家族、利用者、住民代表、民生委員(2名)、ボランティア(4名)、地域包括支援センター職員、職員等のメンバーで、暮らしぶりや行事、外部評価報告、ミニ講座、災害時の協力依頼などで意見交換をしサービスに活かしている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センターとの連携やグループホーム連絡会での検討等、市の担当者と共に施設の抱えている問題解決やサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年4回事業所便りを発行し、利用者の日々の様子や健康状態などを記入した「連絡ノート」を見てもらい、面会時や電話等でも報告している。施設の行事への参加を呼びかけて交流し、日々の生活の様子や職員の異動を報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情を受け付ける窓口を定め、外部機関や第三者委員を明示し、入居時に説明をしている。意見箱を玄関に設置したり面会時や連絡ノートで、気軽に家族の意見や苦情を言えるような工夫をし、苦情処理の手続きを明確に定め、運営に反映させている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族等の状況の変化や要望に柔軟な対応が出来るような時間帯に職員を確保出来るように話し合いや勤務調整をしている。入浴時間の変更や散歩に出かけたりと個々の生活リズムに合わせた態勢を、公休出勤やパート職員で対応している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限度になるよう努力しているが、法人内異動がある。異動の場合は、併設施設の職員の中から適任者を1か月ぐらいベテラン職員と重複勤務したりと利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の研修に参加したり、グループホーム連絡会の研修やリーダー研修等に参加し、ミーティング時にワンポイント研修を行い復命している。リーダー以外の段階に応じた研修は行われていない。	・中堅職員の段階的な育成
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に参加し、ネットワーク作りや他施設との情報交換が出来るような関係を築き、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人や家族が見学に来所し、お茶の時間を一緒に過ごす等他の利用者や職員と馴染みの関係づくりをしている。入居前には、職員が自宅や病院などに出向いて馴染みの関係づくりをしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>人生の先輩として、尊敬の心を持ちながら、自尊心を傷つけない対応に心がけ、なるべく出来ることは支援しながら(漬け物、切り干し大根、ジャムやお菓子作り等)教わったりする学びあえる関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式を活用し、日々の会話や行動などを介護記録に記入して職員間で話し合い、利用者の思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、利用者本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>月1回カンファレンスを開催し、本人や家族からの思いや希望、主治医の意見を取り入れて話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>短期は3か月毎にモニタリングをし、長期は6か月～1年で見直し、見直し以前でも変化が生じた時は本人・家族や必要な関係者と充分検討し、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制を活かし、本人・家族の状況や要望により通院の送迎や付き添い、買い物、美容師の定期訪問の受け入れ、故郷訪問等、その時々々の要望に応じて柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用開始時にかかりつけ医や通院の方法を確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。1週間に1回は協力医療機関の院長の往診があり、緊急時の協力医への受診は、職員が同伴し結果を家族に報告している。家族同伴でのかかりつけ医受診は、日頃の様子や変化については連携を取っている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所前に、本人・家族と話し合い、思いや希望を大切に、医療連携体制加算を受給し、その体制、同意書、実際の対応事例を聞き取り、職員全員で方針を共有している。併設の病院との協力態勢はできている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人で行う「新人研修」を受講しており、言葉がけや対応、記録の取り扱い等については、接遇改善委員会での研修やミーティング時にマニュアルを基に全職員で検討し、注意を払っている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせ、その人らしい暮らしが出来るように、日々その時々々の希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食とも事業所で調理し、利用者の好みや要望を取り入れて献立作り、職員と利用者が一緒に調理やおやつ作り、買い物、野菜の下準備、後片づけなど一人ひとりできることをしている。職員も同じテーブルで同じ物を食べながら楽しく会話し食事を楽しめるよう支援している。刻み食やとろみ食にも対応している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日、14時～17時30分頃まで入浴できる。利用者の気分で入浴を嫌われる場合は、時間を変えて声かけをしたり、家族が来所された時に介助してもらう等の工夫をしている。入浴されない場合は、シャワー浴や清拭、足浴等をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	誕生会、花見、ドライブ、外食、たこ焼きやサンドイッチ作り、切り干し大根やジャム作り、洗濯物干しやたたみ、テーブル拭き、野菜の収穫、畑の草取り等の楽しみごとや活躍できる場面を工夫し、気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日には、花の手入れやティータイムとして外気に当って過ごしている。散歩、外食、買い物、ドライブ等利用者の希望にそって戸外に出かけられるように支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしない為のマニュアルを整備し、法人全体で抑制禁止の勉強会を定期的に行っている。日々のミーティングでも周知徹底し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており日中鍵をかけず自由な暮らしが出来るように支援している。外出を察知したら、職員はそれとなく寄り添い一緒に散歩をしたりと鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデントやアクシデント報告書に記入し、法人内のリスクマネジメント勉強会に出席し、一人ひとりに応じた改善策を職員全員で検討し、介護計画に反映し再発防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、年1回併設病院の看護部長から応急手当等を学んでいる。応急手当や初期対応等の定期的な訓練は行われていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、職員は法人内訓練に参加しており、併設の病院や施設の協力も得られる態勢になっている。運営推進会議で地域の人々の参加を働きかけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報はファイルされ、職員は薬の目的、副作用、用法、用量を理解している。服薬管理表を作成し、薬を手渡し、服用確認をする職員と服薬後の薬包紙を確認し捨てる職員に分け、二重チェック態勢をとって誤薬の無いよう支援している。又、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食前のうがいや、毎食後の口腔ケアはそれぞれの利用者に合わせて支援を徹底している。義歯や歯ブラシは定期的に消毒し、清潔保持に努めている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養のバランスについては、毎月一週間分の献立を法人の管理栄養士がチェックし、助言・指導を受けている。食事や水分の摂取量を記録し、食事の形状や好み等についても、一人ひとりに合わせた支援をしている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	法人全体の感染予防マニュアルがあり、看護師の指導の基に、手洗い、うがいを徹底している。インフルエンザの予防接種は、毎年利用者、職員とも実施している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間には花や写真、カレンダー、手作り作品が沢山飾られており、自然の光を取り入れたホールや廊下は広々とし、窓からは、洗濯物や畑、庭、近隣の庭木等外の景色が眺められ、玄関には腰かけて靴が履けるよう椅子が置かれたりと快適に過ごせるよう工夫がされている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者と家族が自由に居室の様様替えをし、写真や本、使い慣れた家具等を持ち込み、利用者が居心地良く過ごせるようにしている。各部屋にトイレがあり、職員が毎日清掃し清潔にも配慮している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	医療法人 社団青寿会 武久病院
所在地	山口県下関市武久町2丁目5番8号
電話番号	(083)254-4031
開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (2月1日現在)

ユニットの名称				
ユニットの定員	9 名			
ユニットの 利用者数	9 名	男性 0 名	女性 1 名	
	要介護 1		要介護 4	4
	要介護 2	1	要介護 5	
	要介護 3	4	要支援 2	
年齢構成	平均 83.4 歳	最低 67 歳	最高 94 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	全職員を3つのグループに分け、各グループで話し合いながら評価票に記入。最終的に全員で話し合い、自己評価票の作成にあたった。
評価確定日	平成 22 年 2 月 1 日

【サービスの特徴】

ホームの周囲には海と山があり、大変恵まれた自然環境です。少人数で運営している為、職員との間に家庭な雰囲気生まれます。

入居者と職員で毎日三食、食事の準備、調理を行い、一緒に食べます。入居者はそれぞれの能力に応じて無理のない範囲でできることを行い、いきがいにもつながっていると考えられます。

全室個室で各居室にはトイレ、洗面台を設置、リビングルームにはみんなでくつろげるようゆったりとしたスペースを確保しております。プライバシーを守りつつ、他者とのふれあいの場も十分に提供でき、それぞれがのんびりと過ごすことができる施設空間となっております。

併設病院の看護部長による日常の健康管理も十分に行っております。また、必要に応じて常時医師の診察を受ける事が出来ます。職員の約8割が看護師、介護福祉士等の有資格者であることも特徴のひとつです。

お茶会や音楽会、書道教室を定期的で開催しています。マジックショーの開催、ホーム前の畑作業、行事の手伝い等には、ボランティアや地域の方々にご協力いただいております。

漬物漬けや干し柿作り、切干大根作り等、季節を感じることでできる行事を積極的に取り入れております。

ご家族にも行事参加を呼びかけ、一緒に楽しめる場の提供や連絡ノートによる情報提供を行っております。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印、(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		職員全員で考えた地域密着型サービスとしての基本理念がある。
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		基本理念は事務所内に掲示しており、業務を始める前に読むようにしている。各職員からの提案を取り入れ、実践に取り組んでいる。
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		運営理念を明確に示し、職員の間で意識啓発をしている。
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		定期的に勉強会を開催し、サービス向上に向けて努力している。
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		理念は玄関の見えやすい場所に掲示している。又、ホームページ上にも理念を掲載し、理解してもらえるよう取り組んでいる。
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		行事の際は、ボランティアの方に呼び掛け、参加・協力してもらったり、近所の人にみかん狩りに行ったりしている。運営推進会議にも地域住民代表として参加してもらっている。
7 (3)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		併設施設での行事に参加し、ホーム外の人々とも交流できるよう支援している。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		併設施設でのバザーに出店している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全員で取り組んでいる。外部評価については、評価を活かして改善できる範囲で取り組んでいる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2か月に1度開催し、業務や利用者へのサービス提供等の報告を行っている。委員に意見を求め、内容を検討し、サービスに反映させている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	グループホーム連絡会にて交流したり、必要に応じて市担当者と連絡をとるようにしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	施設外研修に参加したり、会議の議題として取り入れたりし、理解を深めるよう努めている。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人全体で取り組んでおり、研修等に参加して意識を高めている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時には契約書をもとに説明を行っている。退居時にも十分に説明を行っている。不明な点を尋ね、納得してもらえらるまで説明を行っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情窓口を設置しており、パンフレット・玄関掲示板に明記している。また、意見箱も設置している。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	連絡ノート、ホーム便り、面会時に報告している。必要に応じて、電話にて連絡して報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	要望があれば必要に応じて対応できる体制を整えている。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	パンフレット、入居時書類、掲示板等に明示している。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に管理者と職員の個人面接を実施している。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の調整は出来る限り行っている。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	併設施設の支援を受けられる。職員が代わる場合は、移行期間を配慮し、勤務を調整している。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内での研修参加、施設内での勉強会実施に加え、グループホーム連絡協議会の研修、市・県等が開催する研修等に参加できるようにしている。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	対応している。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム連絡協議会に入会している。他施設の職員と意見交換したりしながら交流している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		H21.12.1～介護調整手当として15000円/月給料に増額された。(パート職員にも勤務形態に応じて増額された。)
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に意見交換したり、連絡ノートにて報告しコメントをもらったりしている。		
34 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族と本人と一緒に過ごす機会が作れるよう、行事参加を呼び掛けてたり、外泊等への支援を行っている。		
35 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	年賀状、手紙、電話を支援している。知人、友人の来所を家族に了解を取った上で受け入れている。		
36 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	孤立しないよう、共有の場を活用して家事(洗濯物たたみ、タオル干し、掃除等)などを出来る範囲で一緒に行えるよう支援したり、利用者同士お互いに訪室し合えるよう支援している。		
37 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入居者の面会をおこなっている。退居後もホームでのイベント参加の声かけ等を行っている。		
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
38 (15) 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	受け持ち制にしており、利用者との話の中で把握するように努めている。困難な場合は家族との話し合いを行っている。		
39 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族に生活史シートの記入をお願いしている。		
40 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	アセスメント、毎日の介護記録をもとに把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の希望、及びカンファレンスの意見をもとに作成している。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月に一度、見直しを行っている。変化が生じた場合は新しく作成するように努めている。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者カンファレンスシートや情報シートを活用している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じた支援が出来るように努めている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの方に畑作業を一緒にしてもらったり、地域民生委員の方の協力もある。	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	見学は随時受け入れている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて併設の事業所と連絡をとっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		それまでの本人の生活状況をしっかり情報収集したうえで、家具等の配置、生活リズム等を配慮した対応をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報の保護については、入社時に必ず説明を受けるようになっており、職員各自が気をつけている。勤務中の職員間での申し送りについても声の大きさ、言葉の使い方、固有名詞の使用等について配慮している。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己を尊重した支援を心がけている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>介護サービス計画書に取り入れ、利用者が出来る範囲内での活動が出来るように支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>強制のない自由な生活を支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に業者がホームに来て行っており、本人の希望を聞きながらカット、顔そりをしてもらっている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>3食とも職員と利用者が一緒に準備、片付けを行っている。安全に気を配り、出来る範囲内で行ってもらっている。好みや季節感を配慮しながら職員が交代で献立をたてている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>ホームで提供されるもの以外に、居室にてご家族の差し入れを食べていただいている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンをつかむ様、排泄チェック表を使用している。本人のペースにあわせ、無理せずにおこなっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	案内板を入口に設置している。ホーム入口の門は常に開放されており、駐車場も広いスペースがある。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホール、廊下とも明るく広い。天候にあわせてカーテンを適宜使用したり、照明器具を利用したりし、室内の明るさに配慮している。季節の花を飾ったり、カレンダーや作品を貼ったりして季節感を取り入れている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル・こたつ・ソファ・廊下のベンチ等、それぞれが思い思いに過ごせる場所を提供することができる。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みの家具や小物を各居室においてもらっている。利用者、家族に希望があれば状態に応じて、自由に部屋の模様替えを行うことも可能である。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	時間を決め、毎日換気を行っている。温度計、湿度計を使用して室内の環境をチェックし、必要に応じてエアコンを使用している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	廊下、トイレに手すりを設置している。玄関には靴を履くための椅子を設置している。本人の状態に応じて環境の見直しを検討している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入口には名札や花を飾ったりし、わかりやすくしている。トイレのドアにも張り紙をする等工夫している。	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭にベンチや椅子を設置し、ひなたぼっこや季節の花を觀賞できるよう工夫している。ホーム下の畑はボランティアの方によって整備され、入居者と一緒に収穫している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいの	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない